

FlashReport

iNPH診断治療を積極的に行っており、最近の低侵襲手術:MIS (Minimal Invasive Surgery)の流れからL-Pシャントで、かつ最先端のバルブの背部留置で治療をされている河北総合病院 脳神経外科部長 仲間秀幸先生に、その有用性についてお話を伺いました。

当院のiNPH治療におけるL-Pシャント及びその手技について ーバルブ背部留置&体位変換なしの有用性ー

河北総合病院 脳神経外科 部長 仲間 秀幸 先生

当院では特発性正常圧水頭症 (iNPH) に対するシャント術をガイドラインに沿って積極的に実施しており、2008年より通算16例に実施している。先日も、他院で画像上問題無いと診断された77歳の女性患者が、当科を受診してこられた。iNPH.jpのウェブサイトをご家族がご覧になり、セルフチェックで確認をした上で、施設紹介で当院を確認し受診されたものである。受診時には起立すらできずに車椅子を使用し、発語も殆ど無くMMSEも測定不能、尿失禁のためにオムツを着用していた。タッピングテストでは有意な改善はなかったものの、画像上は明らかに脳室拡大が進行しており、iNPHの診断で腰椎腹腔シャント術を施行した。手術施行3日後には発語がみられるようになり、その後リハビリテーションを経て独歩可能、会話も普通にできるようになり、尿失禁も消失した。

iNPHの診断はガイドラインに沿って行っており、原則的にはタッピングテストで陽性の患者に対してのみシャント術を施行している。但し、上記のようにタッピングテスト陰性の場合でも、過去のCTやMRIがあれば、脳室拡大進行の有無や、高位円蓋部脳溝狭小化などiNPHに特徴的な画像所見の変化を確認し、手術適応の検討に役立てている。

iNPHに対する、当院でのシャント手術の術式は、L-PシャントをFirst Choiceにしている。その理由は、V-Pシャントに比べて脳に対する侵襲が無く、圧倒的にリスクが少ない、ということに尽きる。また、手術の対象となる高齢の患者さんに説明する際にも、V-Pシャントの説明と比べると、手術に対する患者側の心理的なハードルが低くなったように感じる。手術の合併症に関しても、L-PシャントはV-Pシャントと比較して、シャント閉塞や坐骨神経痛が多い、などの欠点が従来から指摘されているが、今までのところ、術後にシャント閉塞をきたしたり、坐骨神経痛を訴えた症例は経験していない。

L-Pシャントの手技に関して、腰椎カテーテルの挿入・留置が可能かどうかは、iNPH診断時のタッピングテストを術者自らが行うことで判断している。腰椎穿刺位置は原則L2/3間で、どうしても穿刺が困難な場合はL3/4間に行っている。バルブは背部留置で、体位変換しない方法で留置しており、途中中継点を置かずには腰椎穿刺位置から短めのパッサーを使って、皮下を一気に腹部創まで通している。術後感染をきたした経験はないが、中継点を置かないことで感染予防にもメリットがあると考えている。腹部処置の方法はマックバーニーポイントを分け入っていく方法である。腹部処置の際は体位変換をせずに、側臥位のまま若干ベッドを転回して行っている。体位変換しないことの最大の利点は、体位変換に伴う時間や手間が節約できることであるが、その他にも、腹部処置の際、腸管が下方に落ちるため腸管損傷のリスクが減り、仰臥位時と比べて腹膜確保がしやすい、という思いがけない利点もあった。側臥位における腹部処置の注意点は、術野が斜めになっているため、普通にアプローチすると思ったよりも内側にいってしまう。なるべく外側方向への剥離を意識すると、術野が過度に深くならず、良いようである。

現在、このL-Pシャント背部留置体位変換無しの方法で、術者1人でも40分程度で手術が終了しており、患者にとっても術者にとっても大変メリットがあり、かつ現在考えられる術式で最も優れた方法の一つであると考えている。



河北総合病院 脳神経外科 部長 仲間 秀幸 先生



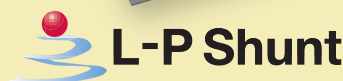
術前



術後



L-Pシャントパック



販売名: シラスコン L-PシャントK型
承認番号: 15100BZZ00770000
製造販売元: 株式会社カネカ

販売名: シラスコン L-PシャントK型(ワンピース)
承認番号: 16100BZZ01893000
製造販売元: 株式会社カネカ

販売名: CODMAN HAKIM 圧可変式/リブ シャント システム
承認番号: 20400BZY00283000
製造販売元: ジョンソン・エンド・ジョンソン株式会社

Reporter 山本 久貴(コッドマン営業部)

コッドマン事業部のwebサイト「www.codman.jp」では、バックナンバーの掲載のほかに「CodmanNEWSへのご寄稿」も承っております。

発行: ジョンソン・エンド・ジョンソン 株式会社 メディカルカンパニー コッドマン事業部
〒101-0065 東京都千代田区西神田3丁目5番2号 TEL.03(4411)7912 FAX.03(4411)7669 http://www.codman.jp

©J&JKK 2010